



なばり

2019年(令和元年) 10月25日発行

主な内容

- ③……児童虐待防止月間
- ④……いじめ防止基本方針の改定
- ⑤……秋の全国火災予防運動
- ⑥……秋の観光情報
- ⑦……伊賀地域二次救急実施病院
- ⑧……とれたて!なばり

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉pr@city.nabari.mie.jp

オレンジリングでつながる支援の輪 薦原小学校で認知症サポーター養成講座



▲認知症の人の気持ちになって、公園で道に迷った人を見かけたらどうすればいいかを考えます。



▲受講後、サポーターの証し「オレンジリング」が渡された。



▲スライドを使い認知症ってどんな病気かを学びます。



おばあさん、どうしたの？
大丈夫ですか？

道、分からへんわ
どうしよう？

▲認知症のおばあさん役になった先生に話し掛けました。

認知症サポーターは

1万人人へ

認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かい目で見守る支援者「認知症サポーター」。本市は平成19年度から認知症サポーター養成講座を実施し、サポーターの人数は1万人に達しようとしています。今後一人でも多くの支援者が必要です。

☎ 地域包括支援センター ☎ 63・7833

◎ 認知症を正しく理解

認知症は脳の病気です。誰もががかかるかもしれない病気なのです。―― 薦原小学校では、総合学習の一環として平成25年から毎年、認知症キッズサポーター養成講座を受講しています。この日、薦原まちの保健室の職員が講師となり4年生21人がこの講座を受講しました。

「認知症にかかると、何もできないのではありません。何も分からぬのではありません。何も忘れたり、不安になったりして、一番つらい思いをしているのは、認知症の人、本人です。」

認知症のことや認知症の人の気持ちを理解し、優しく見守ることが必要だと学びました。そして、実際に地域で顔見知りのおばあさんが道に迷っているのを見かけたらどう対応すればいいのかを話し合い、認知症のお

ばあさん役を演じた先生へ話し掛けてみました。

◎ サポーター数は1万人へ

本市では、介護認定で認知症により日常生活に支障があると判定された人は、2600人を超えています(平成31年4月現在)。

認知症は誰もがかかるかもしれない病気です。正しく理解し自分ごととして考えることが重要です。本市では、平成19年度から「認知症サポーター養成講座」を実施。地域、各種団体、小中学校などの依頼で講座を開き、受講後には、サポーターの証しである「オレンジリング」をお渡ししています。

これまで講座を受講したサポーター人数は、1万人に達します。住み慣れた地域で認知症の人が安心して生活するには、周りに多くのサポーターが必要です。これからも支援の輪を広げていきます。

～ キッズサポーター養成講座を受講した子どもたちの感想 ～

- ◎もし、おじいちゃん、おばあちゃんが認知症になったときに、怒らず優しく接したいと思いました。
- ◎オレンジリングを着けて、認知症で困っている人がいたら助けたいです。

◎近所のおばあちゃんが困っていたら、ゆっくり、笑顔でしゃべるようにします。元気がないときも優しく「大丈夫ですか」と声を掛けたいです。



▲オレンジリングと認定証を受け取る子どもたち

2ページに続く

認知症サポーターは1万人へ

地域で暮らす認知症の人やその家族を見守るさまざまな取り組みがあります。



できることから始めてみませんか
 ㊟ 地域包括支援センター ☎ 63-7833

薦原小学校で毎年、4年生を対象に認知症サポーターの子ども版「キッズサポーター養成講座」を実施しています。短い時間ですが、子どもたちが認知症について学んでくれました。子どもたちも地域の一員です。認知症の人だけでなく、どんな人にも優しい気持ちを持ってもらえるとうれしいです。

「認知症サポーター養成講座」

認知症の症状や認知症の人と接するときの心構えなど、分かりやすく説明します。時間は90分程度。受講後は、サポーターの証しである「オレンジリング」をお渡しします。申込方法など詳しくは、問い合わせ先へ



薦原まちの保健室
 山下 希三代



気軽に誰でも参加できる「認知症カフェ」
 ㊟ 地域包括支援センター ☎ 63-7833

認知症の人や介護を担っている人、地域の皆さんなどが医療やケアの専門職を交えて和やかな雰囲気の中で交流を楽しみ、情報交換をしながら互いに理解を深めることを目的としたカフェです。

オレンジモア(つつじが丘地域)

日時 11月5日(木) 午前10時～正午
 場所 つつじが丘市民センター 参加費 100円(飲み物代)
 ㊟ つつじが丘地区まちの保健室 ☎ 68-7800

めろんカフェ(美旗地域)

日時 11月29日(金) 午後1時30分～3時30分
 場所 美旗市民センター 参加費 200円(飲み物代)
 ㊟ 美旗地区まちの保健室 ☎ 65-5800



すずらん台まちの保健室
 坂元 淑恵

家に閉じこもりがちな高齢者をはじめ、誰もが気軽に参加できる交流の場を作ろうと地域の皆さんに声を掛け「すずらんメロディカフェ」を今年から始めました。懐かしい歌謡曲などを楽しく大きな声で歌い、その後コーヒーを飲んでお話します。中にはご近所さんが誘い出して認知症の人も参加してくれています。「また、次も来るわね」「初めて来たけど楽しかったわ」そんな声がうれしいですね。



行方不明者の早期発見マニュアル
 ㊟ 地域経営室 ☎ 63-7484

市内で認知症の高齢者などが行方不明になる事案が増えています。高齢者などが行方不明になり公開捜索が必要になったときなどに、地域の人々や関係機関が連携して、早期発見・保護につなげていくことを目的とした地域SOSシステム「高齢者など行方不明者早期発見マニュアル」を策定し、運用しています。

マニュアルをもとに、地域主体の「地域SOS本部」を設置。関係機関が素早く対応します。

初動が肝心！
 大切な家族の姿が見えなくなったら
 いち早く地域SOS！



地域SOSシステムの検索体制

高齢者を守る「見守りシール」を活用してください

認知症によるひとり歩き行動がみられる高齢者などが保護された際に、身元確認・連絡を早期に行えるようにする「見守りシール」を配布しています。身近に心配だと思われる人がいる場合は、申請をご検討ください。



愛用している上着や帽子、カバン、靴などに貼ります。

「見守りシール」(左記)を貼り付けた人を発見されましたら、ご連絡をお願いします。

名張市-0000
 名張警察署 0595-62-0110
 名張市役所 0595-63-7599
 (時間外) 0595-63-2110

㊟ 介護・高齢支援室 ☎ 63-7599

★ SNS(フェイスブック・ツイッター)を活用して、名張の魅力を毎日発信中！

フェイスブックからこんにちは！

子どもたちの活躍を紹介します！

つつじが丘小・南中生徒らの国際交流

つつじが丘小学校6年生と南中学校3年生による国際交流イベントが開催されました。参加したアメリカやアジア各国からの留学生らに対し、生徒たちはけん玉遊びや茶道など日本の文化や名張のことについて英語で紹介し、積極的に会話を楽しみました。また、この日は、生徒たちが考案したゆるキャラ「えみらる」が初披露されました。



@ nabari_koho
 ツイッターでも毎日同時発信中！

読者の声

9-2号掲載「人と動物が笑顔でいるために」について ▼長年、色々癒し、癒され暮らす仲間です。家族の一員と考えて最後まで飼ってやりたいものです。▼野良猫に餌を与えるケースはよくあります。身勝手な行動がどう影響を及ぼすかこのように発信してもらえると嬉しい。